WASON
HQ
1104
J74+

Aug. 18
1888
no. 123

一冊五錢

版權所有

當府内無郵税

各土曜日出版

明治廿一年 (第百貳拾參號) 八月十八日發

社説
無名の英雄、戸内の戰死(完)

論説
女子教育主義(大鳥圭介)○日本婦人の服裝(渡邊鼎)

批評
新編紫史

叢話
木村鐙君二週年忌日○英詩○婦人病の原因(長谷川泰)○女神現へる○花の紅白○煙草を飲むの利害問答

小説
哲女の巻○小説神髄

佳傳
静のはなし(高橋おろか)

寄書
日本婦人洋裝論(櫻井ちか女史)

小供談
英雄の所業

新報

外報

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 123. August 18th, 1888.

EDITORIAL:— Nameless Heroes and Deaths on the Domestic Battle-field.

LEADING ARTICLES:— The Spirit of Woman's Education, by Senator K. Ōtori; Japanese Ladies and Foreign Styles of Dress, by Dr. K. Watanabe.

CRITICAL NOTES:— "Genji-mono-gatari in Colloguial."

MISCELLANIES:— The Secondl Anniversary of Mrs. Kimura's Death; What the Fairy told me; Causes of Female Diseases, by Mr. F. Hasegawa; The R edFlower; or the White ?; Whitier's Granted wishes," translated; Good and evil of tobaco.

NOVELS:—Tetsujo no Maki;" "Bouquet of Novels."

BIOGRAPHIES:— Shizuka.

CHILDREN'S COLUMN.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

一冊紙數七十頁
定價廿錢全國無郵税

去十五日出版せり

通信女學第拾貳卷發兌

蓋し最良の教科書

婦人會員の會讀及戶
内の獨學に適せり

●珊瑚の珠 （七十五回）

遊㆓嵐山㆒ 賴 山陽

嵐山峽口第三家。三度侍㆑輿來看㆑花。花已依然母無㆑恙。慈顏紅映幾重霞。

奉㆓母遊㆒㆓芳埜㆒ 仝

侍㆑輿下㆑坂步遲々。鶯語花香帶㆓別離㆒。母已七旬見半白。此山重到定何時。

死に臨み妻に別れをつぐる 菊池 武時

故鄕は今宵ばかりの命ぞと知らでや人の我を待つらん

妻のかへし

故鄕も今宵ばかりの命ぞと知りてや人の我を待つらん

採蓮 小川 萍流

きそひとる乙女がゑみもこほれあふ露にすゞしき花はちす哉

挿頭花 奥田 親子

山櫻つま木の上に折そへていたゞく賤も花かつらせり

夫の石山へこもられておとづれのなかりしほどによみてつかはしける 伊勢 大輔

見るめこそあふみの海のかたからめ吹だに通へしがのうら風

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百廿三號　明治二十一年八月十八日發兌

社説

○無名の英雄、戸内の戰死。（下）

ナポレヲン、シーザー、太閤、高祖等と申すは、決して一人一個の英雄の名に非ず、數多ある英雄の普通名詞なり、旗じるしなり、其下には、相椅つて斯る英名を打立てたる多くの豪傑が含まれたり、左れば、歴史上、社會上、評判の上に於て、以て英雄と稱せらるゝの人は、喩へば總代の如し、名代人の如し、全身の摸樣を現はす人間の顏ばせの如し、天の奥妙なる秘密を現はす彼の蒼たる空の如し。故に、吾人此類の英雄の名を聞くとき、先づ第一に感ずるは、決して其一人の大智力にはあらずして、此の一人の下に、數多の勢力が集合せしめられたる其の大勢力の勢ほひに感ずるとにてある。之を以て、吾人は一人一個の英雄を崇拜せずして、其の一方に集合したる古今大小の無數の英雄を崇拜いたす、即はち、歴史上に一人の大立物と爲つて現はれ、碑文墓石には一人の死したる大龍と爲つて記念せられ、永久傳紀稗史に書止められて後世の人に尊崇せらるゝ、彼の一人立の英雄を愛せず、其下にかくれて、其名沈々として聞かれざる、彼の無名の英雄を愛するもの也。

吾人斯る考に導かれて、古來の英雄豪傑を見れば、其の一人一人は、各自に一個の太陽系を爲して無數の星を同伴して在るが、之を望見して、先づ尤も吾人の眼に觸るゝ無名の星なるものは、即はち彼の細君、即はち此の諸英雄に伴ふ所ろの夫人にてある。」失望落膽したる改革者も、夫人によつて新らたなる生命を得、失望落膽したる大文人も、夫人によつて初めて再度の大著述に發起し、失望落膽したる大將も夫人よつてガバと飛起て軍兵を盛返し、夫人が一言の奬勵によつて大に志を立てたる英雄もあれば、夫人が一瞬の愛の眼よりて大に議論を熱するの英雄もあり、殘忍暴戾を極めたる大豪傑が夫人によつて温ためられて正しき英雄となりたるもあり、最早や世を忍ばんと決したる伏龍の偉人が、夫人に勵まされて再び天下のお役に立つたる例もある。此等は皆な、夫人が英雄を助けたるの實例なるが、時として助けたると云はんより、英雄を産み出したるにてある、否な寧ろ造り出したるにてある、而して英名高名は悉く他人に歸して、御自身の名は全く世より沒し去つたるにてある。」然し、斯る大ひな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

る功勳を爲されたるは、當に良人を助くる所ろの細君にのみ限らず、母も亦然り、姉妹も亦た然り、娘孃も亦た然り、一般惣躰の女性は亦悉とく同樣の功勳を爲したり。見よ、一滴の紅涙は何如に男子を勵ましたる乎、一渦のヱクボは何如に男子を踴らせたる乎、其の軟らかなる手にて撫でられたる頭らは玆に大志を起したり、其信切なる手にて導かれたる双の腕は玆ゝ大事業を爲したり。女性によつて、温められ、慰められ、勸められ、勵まされ、引立られ、躍然として踴立つに至らしめられ、同情に感ぜられ、涙を分たれ、察せられ、喜ばせられ、之に由て笑ひ、之に由て動き、之に由て進み、之に由て止まり、又之に由て大に慷慨し、悲歎し、慈善心を呼起され、蹶然として立つて國事に奔走するに至りたる、何れも皆な女性の助け、案內、に由るとは知らる。而して斯る大功勳ある人は、其名世に聞えず、空しく葛らの下に埋もり、若しくは心なき人の足下に履まれて、同じく是れ塵芥と一般に消え行たり。然し、吾人何如にしてか、此の無名の大英雄を忘るゝことを得べき。

世上の實際は斯の如きものゆゑ、彼の戰場に於て花々しく討死し、名を万世に留めたる英傑あらんに、人もしたゞに此の英傑の當人をのみ尊敬して、更らに之と共に家の內に戰死したる討死手あるとを忘却したらんには、同じく亦た一樣なる誤まりに陷つたるにて在る。昔し、

彼斯王サイラス隣國と戰わんとすパンテアは良人にすゝめ從軍して王の身を護らしめたり征馬門に嘶なき出陣の時既に至るパンテアは手づから製作せる武具の裝束ならびに兜を携へて出で來り鐵の鎖を以て製したる臂鎧を自から良人に着せしめ從容として之に云て曰く若し世の中に己の魂を愛するありも一層深く其夫を愛したる婦人あらば妾こそ則ち其人なるべけれ妾が君を思ふこと斯の如く切なり然れ共妾は君が大丈夫の躰面をけがしたるを見ながら生て共に辱しめを受んよりは君があつぱれ男子の功績あるに於ては假令ひ諸供に地下に葬らるゝも寧ろ之を潔ぎよしと思ふなり君と妾とは固より斯の如く高尙なるとを爲すに堪へたりと信ずるぞやと斯く言ひ終りて從軍の首行を祝し切に別を惜みて良人の馬の背を見送り密かに後ろに從ふて行くと未だ幾許ならずして良人反顧りて曰くパンテアよ心づよかれいざ去らば情別は盡きじ疾く立かへれよと云ひ棄てゝ鞭を擧げ馬を驅つて馳せ去りけるが彼遂に戰場に討死し武勇の譽

れを現れしたりパンテア之を聞き亦刄に伏して死せり。之は毎度申す有名の美談あるが、斯の如きは世間に數多あるとです。夫の討死遊ばすを、妻が知らいで何んとせう、とは太閤記に在る語ばあるが、之は言換へて、細君之を知り、而して郎討死すと申すに均しき譯にて、大凡そ花々しく戰死するほどの英傑には、必らず家に於て之に殉死するものゝ存するを示す、否な家に於て先づ戰死するほどの勵まし手あればこそ、即れち戰場に於て花々しく討死するものも在るです。大坂落城の砌り、萬夫無双の勇を現はし、髮に香りを凝めて潔ぎよく相果てたる、木村長門守は、最后の合戰に先だち、

一樹のかげ一河の流れ是れ他生の縁と承はり候にこそそもおとゝせの頃よりして偕老の枕をなしてたゞ影の形に添ふが如く思ひまゐらせおもはれまゐらせ候此頃承れり候へば此の世限りの御催しのよし蔭ながら嬉しくまゐらせ候もろこしの項王とやらんは世に猛き武士なれど虞氏のために名殘をおしみ木曾義仲れ松殿の局に別を歎くとやらされば世に望み窮りたる妾が身にてはせめて御身御存生のうちに最后を致し死出の道とやらむにて奉待上候必らず秀頼公多年海山の御鴻恩御忘却おきやうねがひあげまゐらせ候めでたくかしく。

長門守さま

妻より

と記したる書狀を受取りたり。之に引換へ、軍の門出にくれ〲と、鎧の袖を引止めつゝ、御機嫌ようお歸りをなどと、歎かれなば、戰ひ止んで三更の月、數行の過鴈郷里に向ふを見て、嗚呼や妻子は何如にすらん、吾れ死すのちは其の愁歎、思ひ遣るだに哀れなりと、黒髮あとゝ引かれて鐵腸も爲めにゆるみ、遂にはメヽしき戰ひして、矛を牽ひて歸るに至らん、必竟、之と共に討死する人の家內に存せざるゆへ也。赤穗の義士銘々傳を見れば、母にして、妻にして、先づ刄に伏して其子其夫を勵ましたる美談が多くある、斯てこそ忠孝義烈の働らきも出で來にたり。此蚊張一つが母の城廓、中途に戰場より引かへす、臆病未練の魂しひにて、破るゝならば破りて見よ、とは勇壯剛毅なる母が、いつも其子を戰場に追やるの言語である。左れば、花々しき討死手は、多くは先づ、戸內に戰死するものあつて、而してのちに斯く討死するに至りたりと見ゆる。然るに、人もし、只だに其の名代たる役者をのみ尊敬して、其後ろに隱れたる大の英雄を忘却せんには、實に見解を誤まりたる眼力にては在る也」。然し、戸內に於け

るの討死手とは、必らずしも現に死するものとは申さぬ、又た戰場に於ての戰死人なりとて、必らずしも現に死するものをのみ申さぬ、先づ內に討死するほどの覺悟あるものあつて、而してのち、外に花々しく戰死するほどの働らきが出來ると申す主意である。尙又た、彼のスパルタの勇士が、戶內に於て大ひなる勵ましを受け、之と盾と矛とを荷うて戰ひに馳せ向ふの趣きは、必らずしも、母と子、妻と良人とのみの間だに存せず、世間一般の女性が、世間惣躰の男子に對する時に於ても、亦た均しく同樣なる關係の存するを見る。貴婦人令孃にして若し信義の戰ひに勇まば、國民を擧げて一國悉く兵と成るべし。貴婦人令孃にして若し之に戰死するとを奬勵あらば、男子は皆な水火彈丸の間だに骨を曝らさん。其他何事に於ても、貴婦人令孃にして若しカシコにと勇み立ち玉はゞ、男子は先づ逸早く飛出でゝ其の地に走らん、妾等此處に死すべし、卿等彼處に死し玉へと仰せあらば、男子皆な一齊に首を列して討死すべし」。然し之は世の實際を穿つたるの見解にて、人多くは未だ此の關係を見ず、たゞ〳〵その戰死者、外に現はれたるの討死手をのみ賞揚し、却つて之をして斯の如くならしめたる、大ひなる戶內の戰死者あるとを忘却せり。

米國の詩人、ブチヤナン、リードが吟じたる中に、

佳人あり、郎が鎧の帶を結び、莞爾として萬斛の苦痛を隱くし乍ら、垂るゝ睫毛の下たには、一滴の涙星の如くに震るひつゝ、掛る、只だ天ひとり此の涙だを知し召し、世上の名譽は遂に之れあるを知らねど、佳人が胸裏は、彼の戰場を霑ほしたる程の尊とき血をば灑ぎぬ。

妻あり、良人が劍を裝ほひ、裂けたる心を靜めつゝ、最と勇まし氣に聲を擧て、泣きつ驚ろく子供等を慰さめ乍ら、夜な〳〵夢に良人が身を圍こむ劍擊銃砲の響きを聞き、嘗て戰場に灑がれたる程の神聖なる血をば灑ぎぬ。

母あり、其兒をヒシと抱きしめて、心裏の苦痛を隱くし、彼が額ひに接吻して、簡短大胆なる數語を與へたる、只だ天ひとり、其の心中の秘密を知ろし召せど、嘗て自由の戰場が受取つたる、神聖の血は亦た此處に灑がれたり。

此れ實に、無名の英雄、戶內の戰死者を慰さむるの朗吟ならん。蓋し、斯る英雄、斯る戰死者の功績を知るもの、至つて少なし、左れど、之を知るものは知らん、天は昭々として特に能く之を知ろし召すなり。賞められて働らくは犬だも之を能くす、名を望んで善を爲すは、惡魔だも尙ほ之を能くす、たゞ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世には聞えず、人には知らるゝこともなく、歴史の之を書止るものなく、輿論の之を評判するものなきに當つて、而して能く此の善功業を爲すは、女性特得の美質である。故に、吾々は、茲に謹んで、過去現在に無數なる、無名英雄戸内戰死の女性に對し、竊かに其の潔白高尚なる神靈を慰さめ、亦た將來に於て、いよ〳〵斯る高尚潔白なる女性の多く出なんことを、謹んで切望す。

論説

○女子敎育の主義（其四）

大鳥圭介（社員筆記）

三、女子の修業。

次に女子修業の事に付ては、彼の女敎師と爲るべき見込にて、專門の學科を修むることならば、之は別事にて、玆に申す所でない、只今は先づ普通の女子修業の事に付て一言すべし。抑も女子修業の事は、近來の流行物の一つで、如何にも大切なることに相違なし、殊に中等以上の女子にて、外國語を學び、内外の書籍を讀み、己が智識を發達し、交際を張り、子を敎育するの道を講ずる等は、最も願はしき事なり。然し、只管ら外國語學にのみ志し、眼前日用の手紙の往復に差支へ、本國の地理歴史を知らず、裁縫の術に拙にて、又家政の計畫に迂遠なるときは、婦人たるものゝ本分に稱はず、輕重を轉倒したることにて、終に一家衰亡の基ひともなるものなり。故に父兄たるものは、能く其分限と世の成行を考へ合せて、實用の度を量り、餘まり極端に趨らず、折角學び得たる者の無用に屬せざるよう、之を誘導するが大切なり。府下一二の女學校の敎則中に、音樂科と云ふあり、其中にて敎ゆる琴並びに、ピアノは、其の人の好みに任せて敎ふることあるが、生徒中にはピアノを稽古するもの多しと云ふ。然るに、ピアノは樂器中の善美なるものゝ由なれば、之を習ふは尤も願はしきことなれども、熟ら〳〵考へ見れば、此器は餘程高價で、下等の品にても金三四百圓、上等のものは千圓二千圓なるよし、人により之を購ふこと容易なるべきが、一般の人にては企て及ぶべきにあらず、よし之を求めたりとも、其形ち大なるが故、八疊敷十疊敷の室におきがたく、幸ひ西洋作りの家なれば、差支へなかるべしといへども、中等社會の女子が、嫁して后ち、時々ピアノを彈きて歡樂するの餘裕があらんか、甚だ疑はしきことなり。折角學校にて學び得し事が、生涯用に立ぬことありては、氣の毒なことである。

之に反して、裁縫、割烹、圖畫の如きは、大ひに趣きを異にし、學び得たる丈けは、皆な實用に適し、着々其功を奏するものなり。中にも書法の如きは、家事閑暇の時、實物實景を寫すと左程難きにもあらず、斯くて稍や其の趣を得るに至れば、自家の娯樂ともなり、風流優雅の心を養ふに足るべし。

四、女子の衣服。

今度は女子の衣服です、是れには困る、全躰日本婦人の着物は如何なるものを着たら宜しいか、私は以前から考へ立ッたヿもあるので、友人抔にも話して、何分婦人の今着て居るものは不十分であると論じたヿもあるが、古は下に袴の樣なものを穿たさうですが、何時の頃よりか長き衣を掛けて、中を帶で締めると云ふ樣になつた、禮式の場にて此服を見るに、甚だ不躰裁で引立ざる所あり。其故是れハドウモ西洋好きだと云はるゝかは知れぬが、西洋流で無ければなるまひと思ひます。婦人方も爰に御列席だから、申すも可笑しいが、女方が途中を歩行いても、前にかゞんで、同じ道でも人に讓り、遠慮して居らるゝは如何にも勇氣が無く見へる。と云ふて袴も一時流行りましたが是れもドウモ不折合のものです、第一に困るヿハ西洋の婦人と交際し、時に公使の奥樣とか、何の夫人とか言はるゝ時分に、日本ならイヽか知れぬが、倫敦や巴里の往來眞中で、縮緬の羽織や、麻裏の草履でハ、迚も立ちきれません。日本に定まれる服式の無いのハ誠に殘念のヿであるが、此儘でハ迚も持切れぬと思ふ、左ればとて日本服を着た婦人の靴を穿たのも、餘り折合が宜いとも思われない（アナタ方は何うであるか）、私は遂に西洋服を着なければならぬと思ひます、其服を製するに就てハ、錦とか、絹とか、決して立派のものにハ及びません、既に私共の或る世話して居る學校抔でハ、一人に就て十二三圓、大きなので十五六圓ですが、勿論藁帽子で躰裁は立派でハないが、ソレで結構です。日本服で以て推し通すと云ふ人もあるが、ソレは社會に廣く交わらない人の話して、横濱の外國人に招待せらるゝ時など、長裾でハ隨分難澁です、成るべく自國の風は棄たくないが、假令外國の風に習ふても、決して奢らぬ樣にすれば宜しひ。西洋婦人は衣服には隨分非常の金を費すもので、西洋でハイヤナ顔をすることを「仕立屋の書付を見る樣な顔をする」と云ひます。仕立屋が御注問の着物の代の催促に來るときは、亭主がよわつた顔をする、其れに譬へてある位です、大層の金を費やす、ソレでは困る。只自分の分限を知り、相

應の着物を造るが宜しい、若し大變に立派の着物を着ても、心にソレ丈けの教育が無く上ッ張りだけでは、心ある人は隨分恥かしきことと思ひます。

ソレで私は先づ、西洋服を着ることと極めた、扨て、之を着るに就ては、最も恐るべきことが二ヶ條あります。前回に川田氏も述べられたが、第一に「コーセット」と云ふ胸に當て腹を締めて、臀を出すと云ふ、之れを除くことです。元來婦人の躰格は、爰にある通り(甲第一圖)(甲第二圖)是れが當り前の婦人ですが、「コーセット」を用ゐたる婦人は、則ち(乙第一圖)(乙第二圖)此の如くに變形して、肺の臟が段々下に垂ることは、又(乙第三圖)此の如くです。西洋でも隨分八釜しく論ずる人もあるが、ナカ／＼廢する譯に往かんと見へます。勿論斯く變形するのは、日本婦人が用ゐたから直ぐと云ふではなく、先祖代々から用ゐて、遂に斯うなるのであらうが、近來私の聞たことには、或る婦人が「コーセット」を用ゐたる爲めに、肋膜炎とかで仆れたとか申しますが、是れは然うで御座いませう。幼年の軟かなる時から締めれば格別、年とつてから急に之を用ゐるときは、一層に危きことです。其は何の爲めかと云へば、只形容を飾るだけです、故に私は若き婦人に逢ふたびに、西洋服はよろしいが、「コーセット」は惡るいと申して居るが實に大禁物です、病の種と思ふ。此れは亞米利加などで最も好むのであるが、文明開化の國には不相當のことであるから、早く矯正しなければならんと考へます。是れに就て一ツの見せ物がある、(支那婦人之靴)是れは支那上等婦人の用ゆる靴です、此風は何時頃から起りたるか、私の調べた所では隋の世に既に此風があつて、足の大きいのは百姓みた樣だとて、不評判であつた、今でも滿州其他では、一向構わぬさうですが、足の大きいのは、大脚婆などゝ申して、極く卑賤のことに致しました。此靴は田邊太市と云ふ人が、五六年前支那から持て來たのですが、餘り小さいから、小兒の靴だらうかと思ふと、(足を入るゝ口)此は此樣に大きい、小供ので無いと云ふとは分ります。幼年の頃から、布で卷て置き、十二三才になれば、足の痛さにヒーヒッと泣くさうだが、益々締めると云ひます。當人が遣るのではなく、矢張親兄弟が其子の足の小さいを自慢にするのですから、寄てたかつて苦しめます。何故私は斯う云ふものを出してお話しするかと云ふに、西洋の服を着て胸を細くするのと、支那人の足を小さくするのは、世界中で惡風の兩隊長と思ひます、アナタ方は支那人の眞似

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

をして足を小さくするの憂へはないが、然し腰を細くするの弊は今日に矯めなければなりません。(岡翠す)

第二は婦人禮服の害です、是れは前に川田氏からもお話しあつた通り、寒い時分でも、胸から上を出すものです私の先達て見たのなどは餘り立派の席でもなかつたが、肩の後五寸ばかり出て居る、日本の女なれば、洗濯でもして居る樣です。是れは西洋でも古ひ希臘の風だと申しますが、元來西洋の婦人は、肌を出すのを大層に嫌うです、野蠻人でも腰には必ず木の葉を卷く樣なもので、學者は大層に惡るく云ひます「ポール」と云ふ鹿鳴館などで遣る舞踏會の樣な時は「ストーブ」も澤山あるから寒くもありますまいが、歸りに馬車の上で、夜風に吹かれたなれば、必ず風を冒きます、是れは大變健康に害がある、是れも廢止にして貰ひたい、西洋服を着る時は先づ此二ッの害を防ぐ樣にしなひと、或は其爲めに西洋服を着なひと云ふ樣なとにならうと思ひます。(完)

○洋服採用の可否如何ん、　在米國　渡邊鼎

日本婦人諸君に告ぐ。(其三)

以上は予が意見の大略なり貴君等如何思召さるゝやと質問したるに友人云く貴君の説明に因り日本婦人服に付詳細に承知したり如何にも貴君の説明の如く不便利不經濟不衛生不格好悉く具なはりたる野蠻服にして歐米の如き多忙なる國にして婦人も男子に劣らさる程の働らきを爲す國にては到底用ゆ可らざるの服なるとを知れり想ふに日本婦人方は多く外出するとを嫌つて他人と交際するとの不足なるも大に此の衣服の關係する所にして智識を狹めるの第一原因物とも云ふ可く又た外出するとを嫌ふのみならす運動を妨ぐるが故に身躰を柔弱にする第一原因とも云ふべく又從て男尊女卑の一原因と云ふて可なるものにして日本にて苟も國民の智育德育躰育を進めんとを願ひ男尊女卑の弊風を改めんと欲せば宜しく速かに和服を廢さゞる可らさるなり云々予云く貴君等は大に日本婦人服の缺點を悟りたるが如し左りなから最初日本婦人服は立派なりとの言を發したるは抑も如何なる主意か思ふに貴君等は予輩か日本婦人服を何と考るかと質問したるが故に正直に不細工至極の妙な服だとも申し惡き爲め只お世辭や追從に立派なりと云ひ玉ひしならん是は啻に貴君等のみならす予輩にしても同樣答ふるは世の人情なれば敢て怪むに足らす殊に某女王か其他外國婦人方が日本婦人服を贊成する抔も皆一の追從言葉に過ぎずと考候何となれば日本の婦人が日本服を裝し

て外國の女王に謁見したるとも聞かず又女王が自ら之を着し試みたるとも聞き申さず畢竟する所貴君等同樣錦繪や寫眞又は人形位を見て奇麗と考へられたるに相違なかる可し左れば予輩は斯る賛成説を全く無効と信ぜざるを得ず何となれば未だ自身にて親しく經驗したるとも無き日本婦人服のとに付我邦高貴の方々へ向て彼是善惡を申し越すとは萬々あるまじきとにてよしや經驗あるゑもせよ(一二の外國婦人)之に付彼れ是れ嘴を容るゝ如き不敬にも又輕蔑至極のとは必ずなかる可し若し果して是れありとせば恰も日本の緋絨の鎧は金が澤山掛つて究屈で不便で十九世紀の世の中には間に合はざるも只三月雛同樣床の前に飾つて置くには珍らしくて宜からんと云ふに異ならざるなり云々と覺ず語氣を進むるに友人等云く如何にも然り然し世の中には目明き千人盲人千人にて目明の中にも又近視眼と云者あるとを記臆し玉へとて談笑されたり。

蓋し我邦今日の有樣は恰も盲人を載せたる帆舞船が一の野蠻國を出帆し文明國ゑ向ひ航海しつゝある者の如く風波に從て進退遲速あるは當然のとにして敢て怪しむに足らず然りと雖ども風の方向波の强弱に依て帆を整理せざれば啻に其進行を妨ぐるのみならず時に或は逆行して再び之を野蠻國岸に吹き寄せ狼狽するとあきに非ず左れば苟も船の直進速行を希はゞ宜しく博識卓見ある船頭(先導)ありて能く其帆を整するを要す幸ひある哉女學雜誌記者諸君ありて能く其の重任を盡せるを喜ぶの餘り爰に聊か暗夜の燈臺船中の羅針盤たらさるも一のパッチーラ位の用に供せんとの老婆心よりして我邦婦人諸君に向て忠告すると斯の如し婦人諸君願くは予が説をして盲者のランプ聾者のピアノと一般ならしむる勿れ。

因に云ふ我邦新聞中往々見る所のとあるが歐米より歸朝せし人の咄しなりとて「外國の婦人は日本婦人の結髪は自然美術の旨にも合ひ微妙云はん方なし然るに之を廢して束髪に惡る變りせしは返す〴〵も殘念の至りなれば斷然復古せよとて英米の婦人仲間には口々に語れり抔と」恥かしくもあく虚説を唱ふる者あるには驚き入たる次第にて日本婦人の結髪風を實際に目撃したるともなく只錦畫や人形位にて漸く見る位の英米婦人にして其の便不便も知らさる者か何そ如斯馬鹿々々しきとを語るものあらんや斯る事ハ何か爲めにする所ありて放言したるに過ぎずして是れ只束髪のみあらんや日本婦人服のとに就ても亦同樣あれハ諸君ハ能く注意して歐米より歸朝せし人の咄しなり抔とて妄説に惑は

されて折角用ひ始めたる洋服を廢する等の愚をなす勿んと希望に堪ず異日必ず噬臍の悔を來すとあらん頓首。

母親は女生徒に向ひ、お前が言ふ通り女學雜誌の御論は尤もだが、夫は平生余り勉强計ーて居るからお休には遊べと云ふとで平生遊んで居る人には左樣言へるゝではありますまい、教よも第一日は安息日とーて休めとあるが、其代りに六日の間は汗を出ーて働らけとあるでせう、安息日を破るのも、六日の間だ怠るも同じ罪でせう、エ・・エ・・・・

批評

(79)。新編紫史（第一卷中本四百十頁定價四十五錢　發兌所　東京本石町大八洲學會）

此書は增田子信氏が紫式部の源氏物語を今樣の時文にて書流され專ぱら此の驚ろくべき大小說を當今の世人一般に知らしめんとの主旨に成るもの也。實に源氏物語は之を談ずるもの多くして讀みたる者少なし讀みたるもの多くして之を解したるもの少し、爲めに三四十種の解釋書も世よ出でたるとなれども僅かに一種の小說を讀むに斯く骨折ねば成らずとなれば遺憾ながら之を讀むとの出來ぬは今の多忙界の人々に尤もなると也。此故に斯の新編紫史一名通俗源氏物語など云へる如き書の出でたるは實に紫女の志を廣ろく知らするの功あり女流の才力を廣ろく知らするの功あり今の小說流行世界に斯る舊るき斯る珍らしき斯る女の手に成りたる大著を廣ろく知らするの功ある等皆な吾人が謝する所ろ也。但し通俗の時文とは申され乍ら尙ほ一般の人々には分りがたき和辭少しとせず本來之を通俗にすると云へば迚も原文の儘を多く存するとは出來申さじ紫にも附かず朱にも附かぬは反つて殘念の至りと思はるゝに付き一層割愛奮發して專門和學者に斗り了解せらるゝ如き文辭を悉皆廢されたし」。此書に謝する所ろ多きが故に其の第二卷に對して望む所ろも亦甚はだ厚く遂に遠慮なく一言すると然り。

叢話

○故木村鐙君二周忌日

今十八日、余及び祐吉、明治女學校講堂に於て、故木村鐙君二周忌日追念會を催す、生徒若干、會者幾人、堂內に在り。余が吊文に云く、

盟母鐙君、君が靈若し見るを得ば、今ま吾等の小集會に見よ。君が愛兒茲に在り、君が女學校茲に在り、君が女學生茲に在り、而して甚だ君を敬愛し、終始君が遺志を繼續せんと欲する、不肖善治亦茲に在り。嗚呼、我國の婦女子は彌よ進まんとす、惣ての女學校は彌よ盛んあらんとす、我明治女學校の如き君を要すると亦彌よ切なり。君が靈、余が祈を聞かるゝ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

GRANTED WISHES.

Whitier.

(1). *Two little girls let loose from school*
Queried what each would be,
One said: "I'd be a queen and rule;"
And one, "The world I'd see."

(2). *The years went on. Again they met*
And queried what had been;
"A poor man's wife am I, and yet,"
Said one, "I am a queen,"

(3). *"My realm a happy household is,*
My king a husband true;
I rule by loving services:
How has it been with you?"

(4). *She answered: "Still the great world lies*
Beyond me as it laid;
O'er love's and duty's boundaries
My feet have never strayed.

(5). *"Faint murmurs of the wide world come*
Unheeded to my ear;
My widowed mother's sick bedroom
Sufficeth for my sphere."

(6). *They clasped each other's hands; with tears*
Of solemn joy they cried;
"God gave the wish of our young years,
And we are satisfied."

○二人のむすめ　　一のぶ譯

(一)ふたりのむすめ、そつげうし。かたるねがひは、それぞれに。
「女王となりて、支配せん。」「われは見るべし、世の中を。」

(二)としすぎてのち、めぐりあひ。かたみにとへば、さきなるは。
よろこばし氣に、こたへたり。「まづしきひとの、われはつま。」

(三)されどいまこそ、女王なり。たのしきいへぞ、配地ある。
まことあるきみ、わが王ぞ。うれしくつかえ、しはいせり。」

(四)のちなるはまた、こたへける。「見ぬ世はおほも、ひろけれど。
愛と義務との、かぎりのみ。わらははつねに、さまよひぬ。」

(五)うきよのこえは、さゝなれど。わらはがみゝに、きこえねば。
おくれしはゝの、病ひのとこ。こよなき世とし、すまうぞよ。」

(六)ふたりは手に手、とりかわし。よろこびなきて、さけびたり。
かみはきこせり、わがねがひ。たがひののぞみ、みちけりと。」

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

とありや、余が君を追懷するを知らるゝとありや、願くは察せよ。君か寫影明らかに玆に在り、君が風姿髣髴として玆に立てり、嗚呼吾等皆な玆に在り、君願くは安んぜよ。

明治二十一年八月十八日

明治女學校教頭　嚴本善治

〇婦人病の元因（其二）　長谷川泰

大日本婦人衛生會月次演說會場演說　佃與二郎筆記

〇〇第一運動の不充分空氣の欠乏なる所から、婦人の病の起る所を話します。亞米利加合衆國の人が申しまするに、何うも我新國は、我父母の國なる舊國歐羅巴の婦人に比較すれば、運動が少くない事は最う孰れも不の字を云ふ者は無い、歐羅巴であれば、假令ば英國の貴婦人淑女諸君などは、尤身體の運動十分に致されます、歐羅巴の婦人なれば、何程か男子の樣に戸外に運動します、又婦人方は馬に乘る、御聞及びも有りませうが英吉利の女皇陛下などは、宮內省の貴嬪を召せられて隨分長い所を騎馬で散歩なさる事などが有りませう、又婦人方がボートと云ふて船を繰ります、其外投毬とか身體の運動の爲に戸外に遊戲さるゝ事は英國の貴婦人淑女などは怠らず殆んど男子の如くに運動を致す譯であります、然るに亞米利加人の申す所では、悲哉我新國合衆國に於ては、大都府の婦人自ら、舊國婦人の如き散歩、或は騎馬、投毬の如き運動は致しません、實に我亞米利加合衆國は、如何なる譯であるか、僅か一日一哩足らずの道を歩行する者は、恐らく一州百人とは有るまい、只歩行に要する所の筋を勞動する事一週間十四五町の道を歩行する丈けで、其外凡身躰の運動をなす、騎馬とか毬投げとか、其外の運動は、亞米利加婦人はしない、實に舊國に對して如何ある思想を懷いて居るだらうか、斯の如き成行で我亞米利加合衆國が先に進んだなれば、是より子々孫々如何なる結果を來すで有らうか、實に慨歎す可き事で有る、ナゼ我亞米利加合衆國の婦人は斯の如き舊國に對して運動をしないで有らうか、亞米利加人が申すには、合衆國の大都府に於て貴夫人淑女の運動をしない事は、詰り英吉利其外歐羅巴諸國に於て貴夫人淑女が戸外の遊戲をする樣な騎馬或は毬投の如き運動法の遊びは亞米利加の流行の風に叶ハないのか、そんな事をすれば田舍の百姓家の妻君か娘かボーイかの樣な者で、貴婦人淑女は決してソンナ者でないと云ふ樣な事か、是が第一婦人の運動しない原因で有らう。次にハ、總て何處でも、御婦人方ハ容貌の嬌艶とでも云ふ可きか、奇麗に優さしくするのが人情のあたり前の樣だが、殊に亞米

利加は容貌の嬌艶を作らんとする病氣の沙汰が有り、嗜好の一ツの癖で有る、是が一ツの原因で有らうと思ふ。

併しながら運動不足の原因は只今述べたる如く衣服の不適當の爲めで有らう、ナゼなれば、今日の如き服制で有るなれば、風も無く雨も無く穩和なる好天氣なれは、隨分洋服を着ても、貴婦人淑女が戶外に運動が出きるが、若し風雨其他天氣が惡るいなれは、迚も今日の服では十分運動が出きない、戶外散步などは行はれない話しであります、言葉を換へれは、穩和なる天氣の外身躰の營養上に緊要なる空氣の中で逍遙散步する事は出きぬのであります、戶外に於てエラク筋肉を働かすれは、ケ樣の遊びをするのは、詰り下等社會田舍間の婦人か乃至割烹店のボーイなどのする事で、淑女のなす可き事ではない故に、閑散の時は書物を讀むとか音樂するとか、是等の事を餘り過ごして、更に運動しない所から、遂に弊害を來たすで有らうと亞米利加人は慨歎して居ります。

此の亞米利加人の慨歎は、我日本に於て維新以來東京の風潮に餘程適當して居りはしないかと思ひ升、如何なる有樣か近來貴婦人淑女は美麗の洋服を召して、運動の遊びなどは何か下等社會のヤル樣な事で天氣の好き時にガルデンで遊ぶ樣な事が有るかは知れないが、昨今の風潮なれは、日に增し運動が減却しはしないかと思ひ升、貴婦人淑女が身躰の運動をなさるゝに就ては、却て封建の時代の方が餘程今より勝りはしますまいかと思ひ升、尤も封建時代には何も衛生上の爲ではなく、長刀を遣ふとか、何か武藝をなされたのみ、全く武邊の精神から出たので、婦人ながらもまさかの時はと云ふのでしたらう、併し身躰を運動して疾病の原因を除くと云ふ點に至れは、矢張英國などで女皇陛下が馬に乘り貴婦人淑女が戶外に遊戯すると、歸する所同じではないかと思ひ升。

只今の處では徒らに容貌の美麗のみを飾ッて身體を健康にする病氣にならない樣にする事は更に御頓着が無い樣に思ひます、斯く申せは、爰に御出席の貴婦人淑女に對しては失禮に當るかは知れませんが、今日御臨席の方々は悉く衛生法の事を御承知でも有り、大日本婦人衛生會と云ふものも設けられ勿論適當の運動をなさるで有りませうが、試に會員諸君外に眼を轉じて考がへたなれば、如何なる有樣で有りませう只だ美麗嬌艶とでも云はうか、更に身體の運動、病の元を除くと云ふ樣な事に御注意になる人は無いと思ふのです、滔々として社會の風潮は、右の如くに思はれる、シテ見れは、亞米利加

人が歐羅巴舊國の人に對して慨歎すると同じく、東京の貴婦人諸君に對して斯の如き弊害は成る可く是を芟除して仕舞はなければならぬ事と思ひます、若し否らずして御婦人が此の儘ゝ運動もせずに居られたなれば、日本は一の病國となつて仕舞ふで有りませう、ナゼなれば親が病氣する計りでなく、親の病氣を子が承けます、弱い親から強い人は出きますまいし、概して云はゞ弱い母から弱い子が出きる。

○一唱百歎

久坂通武

ほとゝぎす血になく聲は有明の月より外に聞く人ぞなき

賴　山陽

花より明くるみよしのゝ春の曙みせたらば
唐土人も高麗人も日本心になりぬべし

平野國臣　(門司關にて)

硯の海は前にあり筆立山は後あり
誰が書けりとは知らねども昔の文字のせきの跡

○女神現はる

女學子兀坐原稿を草す、南窓婆娑、薫風一颯、女神忽焉として現はる、彼は慰さめて云く、請ふ少しく理窟を止めよ、汝ち未だ家なきにあらずや、汝未だ妻なきにあらずや、汝未だ子なきにあらずや、而して半生遂に理想を以て止まんとす。見よ、「スヰートホーム」の作者果して樂家ありしや、只だ戸外雨滴點々の下に立つて、人の樂家吟を歌ふを聽くのみ。汝少しく理窟を止めよ、古人云く知字は憂患の初めと、理想、寧ろ汝が不幸福の基ひたらざらん哉。

○花の紅白

花は笑へり、才子佳人叢下に吟行す、佳人花を摘み、頬上紅潮を點じ、郎に云つて云く、郎、花の紅白何れをか愛す、郎云く白の淸きに若かず、摘花后ろに在り、頬上忽ち靑し。

○煙草を飲むの利害、問答　(其二、答)

扨て、健全衛生雜誌に於て、右八ケ條の難問に答へたる左の如し。

一　今の西洋婦人は洋服、コーセット、高靴其外いろ〳〵の流行惡風に染まり、又常に戸内に働らきて男子の如く運動することなし、夫等から申しても、女子は男子より躰が丈夫ならぬ筈なり、然るに、統計に由て之を調査すれば、男子の壽命は常に女よりは短かし、然らば「男子は女子の如く丈夫なり」とは云はれまじく、之に由て煙草

が害を爲さぬとは申されまじ。

二　此樣に論ずる愚論甚だ多し、酒コッヒーなどを効ありとするも同じ論なり、メキシコ人が唐椒を好み巴里人が臭ゴムを好む、亦た同じ論を爲す。成ほど或るものは刺擊劑と爲つて消化を助くるとあり、然し之を始終用ゆれば何の効もなく、又此が爲に左樣多く度々飲まねば成らぬとの理由はあるまじ。煙草を止て、不消化病にかゝり、復飲て不消化病直れりとは、凡そ或る刺擊劑を常に用ゆれば、胃が段々と弱くなり、遂に之なくては働らき得ぬ程に至れる證なり、善兆にあらず、然し之を止たる爲に不消化病とあるは、只だ暫時の事なり、暫らくせば、胃その健康躰に復し、自身にて立派に働らくに至るべし。

三　ハムモンドとは實驗生理學上に名もなき人なり、其の試驗左程賴みにあらじ。但し若し之を賴みにすれば、煙草を吸ひたる爲めに、身躰の分泌を止め、左なくば外に出し去る如き毒物をば身躰内に止め、之が爲めに躰だの目方を殖したるにて、反つて心配すべきとなり。

四　煙草を飲んで飢を止めたりとも、何の効あるぞ、飢を感ずるとは、躰に養ひを取らねばならぬとを示さるゝ譯にて、實は天のお使ひの如し、煙草の中のニコチンにて、一時此の感じを鈍くするは、則ち天然の注意を聞かざるに同じ、少しも効能なきと也。

五　ナポレオンを例に引くは尤も弱はし、ナポレオン卒去の砌り、其の侍醫が申したるには、之は煙草などの害によつて短命と爲れりと診察したり。彼は戰爭して人の命ちを失はさするを、何とも思はず、況んや衛生に注意して人命を大切にするなどは夢にも之れなきと也。故に兵卒に煙草を飲ませて其の好意を迎へ、若くは之を鈍くして制御し易きようにしたる政略かも知れず。到底彼を以て煙草の利益を證するは、甚はだしき愚論なり。

六　煙草を飲みてさみしさを醫やすとは、即はち神經を鈍くするの譯にて、何の効能にもあらず、さみしさを醫やすには他に良法多くあり、先づ勉强すべし、善き朋友を得べし、何のさみしきとか之れ有ん。

七　煙草を飲みて憂さを霽らすとは、憂をはらしたるに非ず、煙草の煙によつて、憂を見るの目を暗ましたるなり、矢張り又た神經を鈍くしたるなり、心配を散らすは心を直をすより善きはなし、斯る外物の手立によつて漸やく

に憂さを霽らし、而して其身に眞正の憂の種を殘すとは、實にはづかしきとに非ずや。

八　煙草を飲めば勞を慰さむとは、眞實に勞を慰さむるにあらず、矢張り又神經を鈍くして、一時其の疲勞を感ぜしめざる迄でなり、故に其後にて疲勞を感ずると、及び眞實に身體の疲勞となるとは、反つて煙草を飲みたるものに多し。常に鞭を打て追はれたる馬は、鞭が無ければ走らざるに至る、煙草を飲んで漸く仕事する人は、煙草なければ働らけぬに至る、即はち是れ其體だが本當に疲勞し、惡るくなり、何か他の勵ましを得ねば成らぬようになりたるの證なり。

以上八箇條の反對の證據あるによりて、前の八つの利益說相立たず、煙草は矢張り有害なりと斷定したり。」而して吾人は此の後の說を極めて賛成す、此外に、金も費へ、時間も費へ、種々雜多の添道具も入用となつて、煙草飲用より起る損害少しとせず、斯るものは速かに止めたきと也。

母さま明日とはいつでありますか。母答へて一夜を眠り起たる時にて候。其兒眠りて早く起出で朝日のうらゝかなるを見て喜びつゝ母さま明日になりました。母答へて、之は明日に候へず朝にて候ぞ。然らば明日とは何時でありますか。今夜一と夜を寐て起出でたる後にこそ。其兒眠りて又早く起出で母さま明日になりましたか。母涙をうかめて之れは亦た朝にて候。

小説

○哲女の卷　　月の舍しのぶ

余、此頃ろ一週間の暇を造り、妹秋月と共に上總鹿野山に遊ぶ。富津、觀音崎、富岳、大島を一望し、客舍北窓の下に書を讀む。厭けば秋月と共に散步し、疲るれば歸つて談ず、談絕えて事なし、偶ま大ひに感ずる所ろあり、顧はかゝる哲女卷の稿を起し、卒々筆を走らせ、遂に八篇を得たり。歸社後少しく修飾して之を讀者の一笑に供ふるに決したるは、元と思ひ設けざりしと也。

第一章、給合。

扶桑大學評議會の會議既でに酣なわなり。渡物長は無作法に眞中のテーブルに近づき、左手をヅボンの隱くしに突込みて急に左の肩を聳かし、右手を伸ばして煙草盆にシガレットの灰を振るひ落し、身を扭り、片足を曲げて、吶り乍ら、「ワ、吾輩は先づ、田邊君や竹園君の考を聞かんけりや成らん、君方が第一に敎授の任に居るんだから……竹園君何如だらう。

竹園博士（動物學敎授）は此方を向き、目鏡を光らせ、鬚を動かせ、スッパリとして、

勿論出來んと云ふとは無いでせうが、迚も女が左樣なことをして甘く行くものジヤア有ますまい、婦人病か何かで醫者になると云ふならば兎も角、生物學と云つては中々辛棒が出來んに違ひないですが、此エツセー(論文)を見ると中々考もありそうであるシ、隨分勉强家の樣だから、全く頭まから退けると云ふ道理もないだらうと、思ふです。

田邊博士(植物學敎授)は、兩の足を踏張り出し、ダツテ君、又此前の撰科生の樣では困るぜ、此のエツセーと云へどもが、ダ、自分の硏窮計りとは思はれんです、何でも先生の叔父とか何んかが、少しサイヱンス(科學)を知つてると云ふから‥‥

麓理學部長はピカリと振向いて、ピリ、と顏を動かし、其の叔父と云ふナア、誰かエ。

先刻より半ば笑らひ半ば眞面目に議論を聞き居つたる、霞文學部長は、嬉し氣に全身を動かし乍ら、愈〻笑ひ、ソラ‥君‥例の無極‥無極‥エ何んだつけツウ〱秦無極サ、新天文學の開祖サ。

〔麓部長〕ウン、左樣か、先生のお仕込ジヤア定めて志遠大の女學生だらう、無極先生は生物學には隨分不案

内の樣だつたから、此のエッセーは必らずしも其助けに由るんジヤアなからう。

〔田邊敎授〕 由らないとしても、ソンナに立派じや無いじやないか。

〔竹園敎授〕 然君、今の女で、おれ位出來れば大變な者ダゼ。

〔渡物長〕 霞君、君の説はどうだ。

〔霞〕 ろうサ、吾輩の考へでは、一つ入れて見たら何如かと思ふうんだ、マサカ、そう誰も彼も失策すると定つちや居るまいし、女の生物學などは隨分面白ジヤ無い乎、田邊君、君のお手柄に一つ仕込んで見たら何如だ、日本開祖のツマービルを出したら、君が大名譽ダゼ、エ、アツハハハ。

〔田邊敎授〕 イヤお斷はりだ、いつそ文學部に願を出して、霞君の敎授を願へば好いものを、夫なら直と許可になるだらう、下紙を爲て、左樣指令しやう。

先程より苦々しき顏をして、首を垂れ、切に考へ凝たる勝大學顧問は、此時竹園敎授に向て、重々しそうに言葉を放出し、

竹園さん、其エッセーの中でその、ライフ(生氣)のチリヂン(元因)の所は中々面白いジヤあいか、何とかわつたつけ…

竹園敎授は英文の洋紙を、一二三四五と一葉づゝ繰り反ねて、第六頁の中比に眼をそゝぎ、口の中にて二三行讀流して、

玆です、夫の、バシビアス、セチリーは天の浮橋と共に斷絶して、最早此處より彼處を接續するの緣を失へり、如何にスペンサーは原理篇より社會篇迄で一と走りに走り行くとも、又如何にハイケルは數卷に天地創造の順序を解釋するとも、又如何にモーゼは神、土を以て人を造り玉へりとするとも、今や團々たる土塊が能く自動活動する所の元形質に化生すと云るの實證を見ず、蓋し其兩界に大ひなる谷あり、今ま敢て此より彼に渡るの猿橋あきは、チンデルと云へど尙ほ之を容せり

〔霞〕…〔田邊〕…何んだか宗敎家くさいぜ。

〔勝〕…夫れから。

然し余は敢て土塊が生物に化生するとなしと斷言するものにあらず、又敢て斯の如く斷言し得ものにあらず、思ふに何の學者と云へども、今ま大膽に如此く斷言するを得るもの決して之れある可らず。但哲學者、理學者が相混雜して、往々其分限外に走たるを自ら忘れ、間ま臆說を以て事實とし事實を以て臆說とし、彼此黑白を一つにして、爲に大に迷ふに至つては、余の不肖と雖も斷じて其不可なるを知る。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

〔渡〕甘い〳〵。

〔霞〕自から任ずる重い哉ダ。

〔勝〕夫れから。

即はち今ま、無生物化して生物と爲ると云ふものは、之を云ふもの、先づ其臆說たるを知り、未だ之を證するの事實なきとを覺悟せざる可らず、此の臆說果して可か不可か、未だ知る可らず、此の事實果して無きや有りや、亦未だ知る可らず。之を以て未だ之を見ざるの間は、理學士は理學士として之を許す可らず、但だ哲學士として之を許すとを記臆すべし。哲學士は、哲學士として之を論ずるとを記臆し、但だ未だ理學士の實證を得ざるとを覺悟すべし。ダル井ンが進化論を論ずるや、其身、過半は哲學士にして多くは理學士にあらず、アガゼが進化論を否むや、其身、過半は理學士にして、多くは哲學士にあらず。故に余を以て之を云へば、余は臆說に於ては土塊よく生物たるを得るを信ず、理學に於ては、未だ之を確認すると能はざるもの也。

竹園教授は九、十、十一葉と繰り支ね乍ら之から油水……プロトプヒーテ：プロトヷアンの研究です、此の研究は中々能く出來て居るです、少くとも四五年は勉强した樣だ。

〔霞〕文章が中々甘いよ、夫れ位ひ英文の書けるナア、此頃の卒業生にも少いぜ。

〔渡〕中々遣るやうだ、いつそ自分で研究して、時々聞に來る位にすれば好いのに。

〔田邊〕所ろが學士號が貰いたいので、直に大學に這入つて、正則を履で行かうと云ふから、話しが六かしいテ。

〔竹園〕撰科生ならば不都合がないのだがナ。

〔勝〕ダッテ君、試驗をするのだから、合格ならば入てよし、不合格ならば退ける計だらう、別段差支は無いジャナイカ。

〔渡〕どうも然し、既に文部大臣の考もあるし、一躰が此間の樣に定まつて居るのだらう……。

○小說神髓

蘇格氏著　ケチルヲルス　（第二十六回）

エメは凛然として、敬愛する所ろの我夫レスター侯よ、是迄の事を段々と考へ侍れば申すも憚り乍ら悉く是れ君が主義の曲り居り候ゆへに遂に此の恥辱の場合に陥いり玉へるなり然し只今にても一言にして此の困難を拂ひ去るとの出來べしとは信ぜらる抑も君は英國の紳士、勳爵士、高位の位階を保たる丶御身なれば凡そ何事に於ても眞實を御守りあらずは成ず夫

故へ今まお勸め申すは此の不幸たゝる妻の手を携へて陛下の御前にお連れあさい今こそ斯く衰ろへたれ一時は更らに美しかりし女にて臣は爲に之に迷ひ候と白狀して妾わをお連あさい此時萬一にも陛下の御怒りあつて夫にて君と妾わとの間を斷ち離つとが出來候とも妾は決して之を恨み申さず一と度び陛下の御前に於て天下晴れてレスター侯の妻なりと言はれ得たらば其后は何如ある運命に出會ふとも苦しく思ひ候はず蓋は其の後の運命は何如にあるとも最早や妾が正當の名を汚がすとの出來まじきゆへに候。

エメが斯く述懷する間だに其の容貌に氣高きと優温なる情愛とを示し卑劣あるレスター侯の心を打つて彼が高尚なる大氣なる氣質を悉く引立てたり、侯は大ひよ嗟歎し嗚呼余は汝ちが如き氣高き婦人に釣合ふものにあらず汝ちが申すところ一々に尤もなり然し今日迄で既でに斯く詐はつて自から詐りの網の中にからまれたれば今に至つて之を解き破るは實に難し左なきだに余が過まちを見出して余を陷いれんとするものあるに彼等は此際いよ〳〵之に乘じて大ひに余を貶し陛下は之によつて遂に今朝おどせし如くに眞と余が首をはねらるゝやも知れずと危ぶむ、エメは更らに之を勵まし其は倘ほ君が御自身の迷よひならん凡ろ臣下が妻を擇ぶの自由を取りしとて首を取るゝてふ理由は候まじ左樣に君がお考へあるは正かに陛下の御寵愛を正しく御受取なき故にこそ候はめ君が御心の中に一つの案山子あつて之が君を迷はし其の正道に行かんとし玉ふをば威すにや候はんと云ふ、レスター侯少しく笑ひエメよ汝ちは朝庭の樣子を萬事知らざれば左樣に思ふも無理ならず然し案じ玉ふな余れには徒黨もあり友達もあれば父や祖父の如く只だムザ〳〵と王の怒の犧牲とは成らじ左らば汝が申す如くに取計らふ前に先づ余が黨派に通じて身を固めねば成らぬ、エメは更らに諫めて凡そ平和の時に黨を立るは臣下の道に非ず只だ正しくさへ居まさば御心安かるべきにと云ふに、レスター侯之を可かず固より汝が敎の如くよ白狀は爲さんが一身を保護するの道に至りては汝ちよりも余よく之を知れり其事に付ては余を指圖し玉ふな、再たび會ひて汝ちと共に御前に出づべし今暫らく相分れんとてシカと抱き占め別を告げて去らる。パーチーは今まで傍へに扣へて恐こまり居たるが侯の出づるに隨つて恭やしく禮を呈して出で獨り密かにつぶやきて云く扨ては致し方なし斯なる上は最早彼を失ふか若くは我自ら失ふか遂に斷乎たる最後の策を執るの折とは

爲れり玆に至らせじとて多少の苦辛をも爲したるに嗚呼最早致方なし…………。

此處を出るとき一男子あり何やらん包みたる品を持ち來りてレスター侯に渡さんとす、バーチー特更らに間を遮ぎり之を退けて受取らしめず。后に至りて思ひ合はすに之れぞ遺憾至極の種なりける。

佳傳

○靜のはなし

髙橋　おろか述

靜は磯の禪師が娘にして男舞を能くし其名白拍子を以て京師に聞ゆ常に貴族の門に出入して終に源義經の妾となる靜が謡ひたる歌とて飛鳥井家に傳ふる水の宴の曲と云也其詞に曰く

「水のすぐれておぼゆるは西天笠の白鷺池じんじやう許由に
澄わたる昆明池の水の色行末久しくすむとかや
「賢人の釣を垂しは嚴陵瀨の河の水月影ながらもる夏は山
田の筧の水とかや
「茅の下葉おとずるは三嶋入江の氷水春立空の若水は汲ども
く盡もせじ盡もせじ

此三首結毦錄に在とて閑窓瑣談に載たり蓋し白拍子は鳥羽天皇のとき舞女島の千歳、和歌の前を以て始めとす其裝束には白き水干を着し立烏帽子を頂き白鞘巻の腰刀を佩て舞ふ故に男舞と稱す藤原通憲（剃髮して信西と號す）音曲を好めるを以て舞曲中の佳なる者を擇びて其曲を增加し立烏帽子、腰刀は優ならずとて之を廢し扇子をとらせて舞はしむ磯の禪師は通憲に撰ばれて其佳曲なるものを學ぶ娘靜に傳へしむ靜此藝を繼き舞曲を以て其名都下に現はる是より此藝世に行はれて妓女又多く官民擧つて酒宴の席に招き興を助しむと云ふ貞丈雜記に云く水干は多くは白色を用ゆる物なればかの島の千歳、和歌の前の着たる水干も白かりしによりて白拍子と名付たるなるべし云々此說取ところあるべし夫れ白拍子の根元は大略此の如し靜は即ち此舞曲を能するを以て鎌倉に召るゝの日鶴ケ岡に於て頼朝、政子に其舞の手を望まる靜固く辭して云く妾今日離別の悲みに堪えず爭ぞ歌舞の意あらんやと然れども頼朝之を聽れず再三强るに及び貴命として背く能はず故に起て白雪の袖を翻へし義經愛慕の情を寄せて舞ひぬ此時工藤祐經は鼓を撾ち畠山重忠は銅拍子を撃つ靜先づ和歌を唱して曰く「よしの山みねの白雪ふみわけて入にし人の跡ぞ戀しき、次に離別の曲を謡ひ又唱して「しづやしづしづのをだまき繰

かへし昔を今になすよしもがなと聲態絶妙衆皆感動す是此唱歌は義經に對するの曲あるを以て頼朝憚こばず政子之を諫めて衣服を纏頭と爲さしむ後ち工藤祐經、梶原景茂靜の僑舍に就きて飲燕す母磯の禪師も亦酒を佐く此時景茂酔に乘じて靜を挑む靜落涙して忿て曰く吾は源二位の連枝豫州の妾なり汝は是二位の家臣なり豫州若し沈淪せずんば汝猶吾に對面するヿ能はず況や我に即て謀ヿを得んや景茂忸怩しく退くと云ふ以上陳たる處は既に誰も知り得たる事にて余は東鑑に因て其大要を記したるものなり然れども靜の世去墳墓の事に至ては人之を云はず故に冗長を厭はずして此に略記せんと欲す世に云ふ靜鎌倉を放たれ京師に送らるゝや義經を慕ひて陸奥に下らんとせりと此說實事なるが如し閑窓瑣談に云く武藏國栗橋宿より西の方へ入ると四五町高柳村のうち松永といふ所に杉あり昔よりして此杉を靜の塚と言傳ふ川を隔て中田宿光龍寺と云ふ院に靜の舞衣を藏てあり此舞衣は靜が雨を祈り恩賞として後鳥羽院より賜りたる袞龍の御衣なりと云ふ然もあらんか往古利根川の流今の如くあらざる以前は中田の光龍寺も高柳村の内にて元は高柳寺と稱せしとぞ云々此書を信ずるに於ては靜京師を出て義經の跡を慕ひ武藏まで下りしと疑ふべからざるなり然れども天此愛情を遂しめずして東路の野末の露となさしむると是實に薄命の婦人と云ふべし。

寄書

○日本婦人の洋裝論　　櫻井ちか子

左は大坂一致女學校長櫻井ちか女史が、日本婦人の洋裝をなすの不可なるヿを辯ぜられたる米國貴婦人の勸告書に對して、ニユーヨーク及チカゴ新聞に寄せられしものゝ譯文なり。

予嘗て我國婦人の衣服を改良するは其尤必用なるを感ず故に予は常に洋服を着せり而て外人多くは之に反對す或外人予に洋服を止めんことを乞へり予其人に其所以を尋ねたりしは若し道理に協ふことなれば予は直に之を止めんと欲すればなり其人曰く汝は和服を着せし方いと見よくして且つ美麗なれと予只訝むる爲ゝは和服の美麗なることは素より知れり去りながら最初には着なれざるゆゑ不恰好に見ゆると雖とも之を永く用ひなば之を能く着なれ其恰好も大に見よく自然に和服の美麗にも増る裝ひをなすべけんと思ひ其時よりして益々洋服を着せんことを決心せり予近頃米國一貴女の書翰を新聞紙上に見けり其書翰は所謂我國婦人に洋服を着するを止めんことを勸む曰洋服は費へ多しと予顧ふに其人たるや我國婦人衣服の及び其下着などの爲に幾許の縮緬及び絹布等を用ゐ居るかを知らざるべし我國婦人は價拾有五圓以上の帶を纏ふること屢なり曰我國の服は體躯のために自由なりと予顧ふに其人嘗て我國人が恰好よきと見ゆるほどの幅廣なる帶をまとひしことなかるべしと殊に我國婦人は務めて腰部を細小となすが故に歩行に甚困難なり曰下着を變ずれば可ならんと予顧ふに若し其人にして洋風の下着の上に和服を着することを數日試みらるゝ時は其不快なるを感ぜらるゝならん我が衣服は靜かに立ち居をすれば可なりやゝもすれば膝脛を著はさずして歩行する事甚難し格別に風ある日外出すれば之が困難を覺ゆるに至る唯我衣服は床上に坐し居るに便利とするのみ是血液循環に甚有害なり予聞く吾國人の足部は體の上部に比較すれば二寸ばかり短しと予其確實たることを信ずりれ洋服は格別に小兒の爲に適せり實に小兒の衣服の袖は甚長くして殆ど地上に達するものあり殊ゝ幅廣なる帶は小兒の爲に甚有害なるもの也。

一小兒あり其兒和服を着すると洋服を着すると其擧動異なれり洋服を着せし時は起居奔走甚活潑なり和服を着せし時は坐臥進退閑かにして行歩するも亦徐かならん然りと雖ども我國小兒は決して走らず馳せずといふにあらず其走るや必脛を著はさゞるを得ず或人曰小兒及男子の爲には洋衣は甚適せり然し婦人は和服を着すべきなりと予亦顧ふに此說行はれ難きことなりりハ今ま夫及び小兒ら洋服を着し

靴を穿ちて椅上に坐し其妻のみ和服にして床上にすはらば甚以て不便利たるべしろも本邦男子の洋服ハ止むること能はざる處也已に我國政府ハ洋服を着すべきを諸官吏に設諭す現に諸官省に和服を着する人を見る事甚まれ也其上婦人の衣服を改めざる事ハ婦人の位置を低うするの原因となるべく我國婦人ハ一般に殆んど奴隷の如くに扱はれたりき我等ハ婦人の權理を男子と均しうせん事を力む我國に諺ありて曰(もし或男子他人に向ひて無理なる事を云ひ或ハ罵る時ハ)汝家に歸りて汝の妻にいふべしと實に婦人ハ己れよりして生れながらに男子より劣りたる者と思考し屢々男子を天にかたどり女子を地にかたどる我國婦人ハ何事にかゝはらず都て其夫に服從せんことを敎へらるわれ願ふに從順ハ婦人の美德なり故に之を發成するハ甚よし然れども天父ハ婦人にも男子と同じき天與の賜をあたへられし故にそを發育するも吾人の務めなりと覺ゆ貴國の姉妹方も同感を持つことを知れりされぱこそ貴國より我國の婦女子を敎へんがために多くの女敎師を贈れり我國婦人の位置ハ日々改進す是れ實に貴國有志家の賜なり外貌の形ハ大に心情を動すものなり聖哲日居は心を移すと眞なるかな婦人の衣服にして若し改めざれば婦人の位置を高むるの大なる妨害なりかくの如き塲合なれば米國にある處の我親愛なる朋友よ願くハ洋服を止めさせんことを勸められ又ハ批評せらるゝことなく洋服を着すべき方法及び安逸なる服を作ることを敎へ玉はんことを予おもふに貴姉方ハわれらが餘り固きカウセット及び衣服を着して流行の奴隷となることを怒るゝならん然し我國にある處の宣敎師婦人にして好き例を示さるれば斯くの如きことあらざるべし彼等ハ我國婦人社會に大なる勢力を有せり我國婦人ハ其人々の例に傚ふことを好むことハわが喜ぶ處なりそハ予おもふに萬里の波濤を越ねて善業の爲に來たられたる貴婦人ハおろかなる流行に依て支配さるゝの如き愚人に非ることを保す我國婦人ハ外貌の改良と共に心も改良せんことを切に希望する處なり。

新報

(此欄内自由に轉載を許す)

○賦金

賦金の事に付ては、近來世上に於て色々と喧しき議論あり、女學雜誌に於ても、毎ゝ多少の考を申置たる處ろ、去八月六日勅令第六十一號、同七日閣令第十二號を以て、「賦金は、府縣知事に於て適宜に賦課し地方税雜收入に編入すべし、且つ、警察費に對する國庫下渡金を、東京に於ては總高の十分の四、地方に於ては六分の一と改められたり」。之に付ては尚又色々の議論あれども、之に加入するは吾人の任にあらず、只何分にも喜ぶべき御改令を有がたく申すに止まる。

○マルハ號事件

英船マルハ號乘組員、我國婦女に對して無禮を極めたるやの評判は、前號に於て記置たり、然るに今度横濱英領事の注意により、次回にマルハ號來着の節、更らに其實否を撿するととなりたり。

○美術學校　同校は當分の内上野敎育博物館の一部を以て敎場に充て生徒二十名を募集する都合なるが何分にも其敎師の得がたきに困まりおらるゝとのこと。

○赤十字社の看護婦　日本赤十字社に於てハ追々社務を擴張するに付き看病婦が尤も緊要なるより其養成方法を種々協議中なりしが第一着に軍人軍屬の寡婦に其法を敎授し之を敎師として多くの看病婦を募集する都合なりと云ふ。

○女子出稼規則　其筋にては曾つてより女子の海外出稼規則を定むるの説ありて聞く所によれば年齡に制限をなし且つ從來の營業によりては渡航を許可せざるやの趣きにて假令妻にても出稼人には夫々取締法を設けらるゝ由吾人は一日も早く嚴重の取締法を設ふけられんとを望む。

○師範學校女子部　和歌山縣にては今度尋常師範學校内に女子部を設くる筈にて近々文部大臣に伺ひ出る由而て愈よ認可を得たる上は來る廿二年度の通常縣會へ其議案を呈出する都合にて現に新築中なる尋常中學校の落成するに至れば從來の中學校は全く不用となるより之を女子部に充つる筈なりと。

○共立女學校　横濱共立女學校にてハ始業期日を九月廿四日まで延ばし其間に講堂を增築して多數の生徒を入れんとの都合の由。

○婦人の世界　と云へる雜誌を京都高等女學校より發行せらるゝとを本誌にも掲げしが聞く所によれば未だ第一號を出さずして當分其企てを見合せられたりと云ふ。

○小田原の女學校　去五日發兌の貴女の友第三十一號新報欄内小田原通信の中に「神奈川縣下小田原に有名なる一の女學校あり目下五百餘名の生徒と二十餘名の敎員とあり」云々と記載しありしが。小田原には編者の知人もあり折々通信を得れどもかゝる大女學校のありしとは未だ耳朶にたも觸れず尤も久保田榮氏等の設けられし小田原女學館なるものあれども是れは數十名の生徒あるのみにて中々左樣に盛大なるものとは承へらず何かの行違ひにはあらざるかと如何しく思はる。

外報

(仝前)

○米國密賣淫　同處にも惡風は絶へぬものと見へニウヨークワールド新聞に據ればボストン府内にて一萬人の女は不正業を營みて生計するよし也故に惡業防止協會の會長ヘンリーチエース氏は云へり余はボストンにて著名なる實務家の五人の上に直ちみても手を擧ぐるとを得べし其の五人は曾て云へり多くの女等其人の所に來り妾等は常の賃銀にては生計を得ざるに付き不正業を營みて暮らし向を爲さんと欲すと云ひたるを聞けりと。又五月のグードヘルスに云く紐育にハ二萬五千の墮落したる婦人ありと」。あゝ天下何處に聖都あるや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

小供談

○英雄の所業

昔しアメリカと申す國がイギリスと申す國と戰爭を致しました時にアメリカの軍の役人にヂャスパーと申す人がありました其人の兄はイギリス方の役人でありました故時々其許に話しに參りますことがありましたが或時アメリカ人が擒となつてイギリス方へ送らるゝと云ふ事を聞きまして其友達のニユートンと申す人と共に連れ立ち囚人の居る所へ行て見ますに屈强なる男子五六人何れも疲れたる躰にて誠に可憐の有樣あるに其人達は皆我味方の人達にて敵の爲に捕へられしと思へば最とも倘ほ堪ざる思ひの起りますに近きよく見れば一人の女甚だ見醜き風躰にて甚だ貧困なるものと見へますが其貞人を愛するの愛情には中々富みたる婦人でありまして始終貞人の面前に坐りまして貞人を慰さめ又一人の膝に置ける小兒をいたわりまして居りまする其志しと云ふ者はアッパレなる女丈夫でありますこれが我米州の婦人であるかと思へば愈敬するの念を起しまして斯る貴とき婦人を無慘にも敵手に苦しますとは如何に可憐のことどもなりこれを見たる我等ぞこの人達を救ふの義務あり固より敵は大勢にして所詮敵すべしとは思へねど義務の爲には我身の死するも厭はじ是非に一度は死ねばならぬ命なれば寸時を竊みて義務を欠くの人と笑はれんよりは潔ぎよく身を義の爲に捧ぐる事我身今日の務めなりとヂャスパーは決心致しまして其趣きをニユートンに告げましたるニユートンも同じ思ひでありました故サラバ二人が共に力を合せて彼等を救ひ見るべしと暫し相談を致しまして少し離れたる湖の邊に隱れて彼等の來るを待ちて居りました案に違はず彼等は湖の邊に來りまして水を飮まんとて持てる鐵鉋を木の根に置き汀ちかく行きました其時ジャスパーとニユートンは虎の如くに走りまして木の根に置いてある鐵炮を奪ひまして番兵を射ました素より二人は一隊の大將でありますから鐵炮には甚だ達して居りましたゆへ一發も空炮なく脆き番兵共は見る間に仆れてしまいました二人は喜んで急ぎ擒の繩を解きいろ〳〵に勞わりましてアメリカの陣に連れて歸りました陣中では其話しを聞きまして其手下に戰ふことを喜ぶ樣にありなほ今でも英雄の所業だとて賞てやみませぬ。日本では人の首を切つたり戰に勝つたり金棒を振まわす樣なことを誇りて居りますけれ共此二人の行ひこそ我々の尤も手本とすべきことでありませう。

生徒募集廣告

定期試業畢る寄宿通學共入學を許す來る八月卅一日迄に申込あれ

明治廿一年八月

小石川柳町二十七番地
私立 跡見女學校

生徒募集廣告

●通學生百名寄宿生貳拾名入學ヲ許ス但シ年齡十一才以上ノ者ニ限ル●學科ヲ別テ豫科及ビ本科(各三年ニテ卒業)トス又撰科生ヲ設ケ所定ノ課目中或ル學科ノミヲ撰脩スルコヲ得セシム○教員ハ重モニ大學校ヲ卒業シタル數名ノ英國婦人ナリ但シ專門學ノ講義ハ帝國大學教授ニ之ヲ依囑ス○束脩ハ之ヲ要セス○普通科ノ授業料ハ毎月金貳圓五拾錢但シ洋琴ヲ學ブ者ハ別ニ金壹圓ヲ納ムベシ○寄宿料ハ毎月金拾五圓但シ外國教師同様ノ寢食ヲ爲サシム○入學志願ノ者ハ當館事務所ヘ申込ムベシ

麹町區永田町二丁目廿番地女子教育奬勵會
私立 東京女學館

本校新築落成致し來る九月十五日開校日々教授候間有志の貴姉妹續々御入學相成度候也
規則書は郵劵二錢を受けて呈送すべし

築地居留地四十六番地 高等佛和女學校

在米の米人學士

よして特に日本の教育に盡力せんと欲するものあり月俸百圓及び家族住居の家を用意せらるゝものあらば條約の上速に渡來あらんとす而して令夫人は音樂に長ず又無報酬にて貢人と共に其校に盡力あるべし右學士の學力及び篤行に關しては、女學雜誌社員が保證する所なれば日本教育の爲に之を紹介するもの也志あらん方は來談を乞ふ

巖本善治

●六合雜誌

第九十二號 八月十五日發兌

目次○佛教徒も亦た多事なる哉(高橋五郎)○生前の教育(森本介石)○人間の尊貴は上帝を信するに在り(山田寅之助)○グランドストン氏のインガルソル氏基督教論の批評(高臥生)○神學の位置及區域(小崎弘道)○イスラエルの歌仙大闢王(湯淺吉郎)○印度に於ける宗教問題○雜記○宗教の必要○眞理の證○帖撒羅尼書注釋

定價一册金拾錢全國無郵税

發行所 東京々橋區日吉町廿番地 警醒社

●材料新誌 八册

演説と著作との材料を集めたる書類眞に多き中に吾人は確信す其尤も精密にして且つ其種の尤も手廣きは必らず本誌に超ゆるものなかるべし之を讀者が先づ一讀の上へ其の實否を知られんとを欲し見本一部を需めらるゝ方は郵劵五錢にてよろし都合八册出來し一册紙數三十頁以上定價なり故に先づ見本一部の上御注文あらんとを乞ふ而して見本には八册の中何號にても御申越し次第發送すへし

發賣所 東京京橋區日吉町八番地 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

クレームシモン廣告

クレームシモンハ巴理ノ最モ名醫ノ勸メル所ニシテ美麗ナル婦人ハ皆是ヲ用ユ、此藥ハ他ニ其類ナク一夜中ニ面胞(ニキビ)、胼(ヒビ)、寒瘡(シモヤケ)其他皮膚一切ノ出來物ヲ治ス又皮膚ヲ白クシ強クシテ且香氣ヲ添ユ

プードルシモン(粉)サボンアラクレームハ共ニ同シ香氣アリテクレームシモンノ著シキ功能ヲ全クス

一手賣捌 橫濱五拾一番 ア、キユルチー

關輪正路纂著○木村熊二、田口卯吉兩君序

女子必携 **今世ひめ鑑** 全一册 定價五十錢 郵税

右出版いたし候是非は自から公評あらん凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵悉とく記載し有之候蓋し昔の「ひめ鑑」の重寶なりしとを御存知の方々は此開化したる當世のヒメ鑑の亦同樣に助けあるとを想像し玉ふべし

八木兼辰先生畫

東洋畫手本 蘭竹 菊梅 二帖 定價金六拾錢

此帖は即ち學畫の楷梯にして四君子より始め花卉鳥獸蟲魚人物山水に至るまでを逐次に模寫し疎あるも浮薄に流れず密なるも刻滯に陷らず加之折枝は陰陽向背を詳かにし又三方を明らかにし此法によつて花を插めば自然法に適ひ趣をなす山水は吾國有名の眞景を寫し獨り用筆用墨のみならず目未だ見ず足未だ踐ざる奇勝名景筆下に集輯す人物は故實に徵し古圖に基き畫を學ふと共に智識を廣くし吾國他の美術上にても亦鴻益あらんとを期す近刊四君子の部就いて購覽あれ。

東京日吉町八番地 **女學雜誌社**

發兌				
七月。	七日	十四日	廿一日	廿八日
八月。	四日	十一日	十八日	廿五日
九月。	一日	八日	十五日	廿二日
				廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日

定價

一册。五錢	郵税。一錢	(但府内無郵税)	
十册。四十八錢	郵税。十錢	(同前)	
半年分	一圓十七錢	府外は	一圓四十三錢
一年分	二圓卅四錢	府外は	二圓八十六錢

廣告

一行	一回	(廿七字詰)	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絶す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部増の割合と定む

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町暖々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町眞明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本郷區元富士町盛春堂○同本郷區春木町二丁目解明堂○同本郷四丁目文壽堂○橫濱住吉町角田昜貞○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入浄集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町盛進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原緑町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年八月十六日印刷
明治二十一年八月十八日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行人 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY